

弥生時代中期における北陸と信州との地域間交流

(公財) 石川県埋蔵文化財センター 久田 正弘

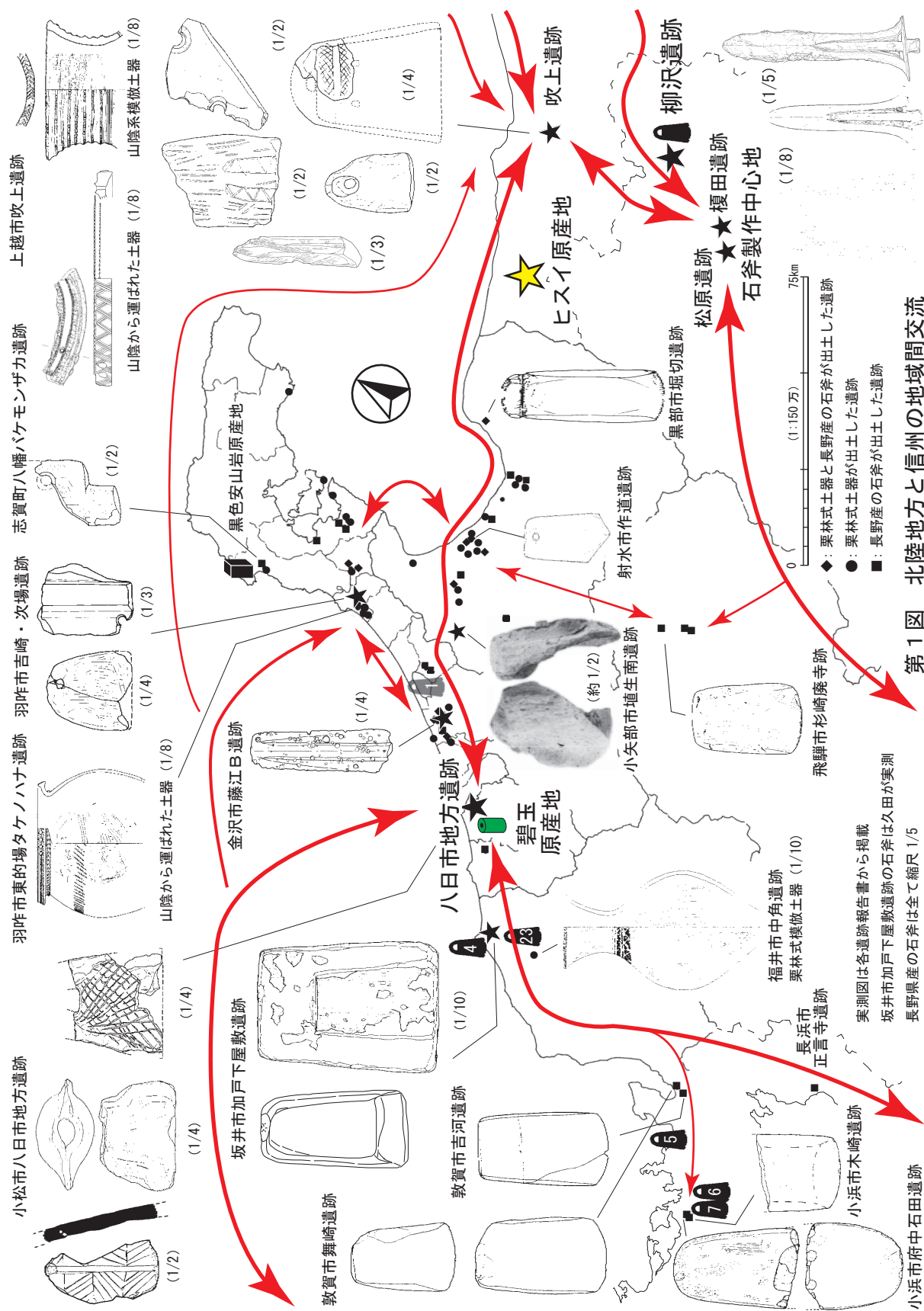
北陸地方の中で、新潟県上越地方より西側の状況を（石川県を中心に）報告する。北陸地方の中期では、旧国単位で1つか2つの大規模な拠点集落（環濠集落）が確認され、湖沼や河川周辺（水上交通の要衝）に立地している。代表的な小松市八日市地方遺跡では、中期前葉から後葉にかけて旧河道の両岸に集落を営み、集落の周りを環濠で囲み、その外側に方形周溝墓群を展開させている。集落内では周溝を持つ（竪穴）建物に住み、玉生産や木器生産を活発に行っていた。方形周溝墓は溝を重複や共有しながら列状に造営し、単体埋葬を基本とし、周溝内埋葬も若干ある。しかし、環濠を持たない小規模集落では、集落の存続時間は短く、居住域と墓域（木棺墓）は明確な区画を持たず、近接しているものが多い。

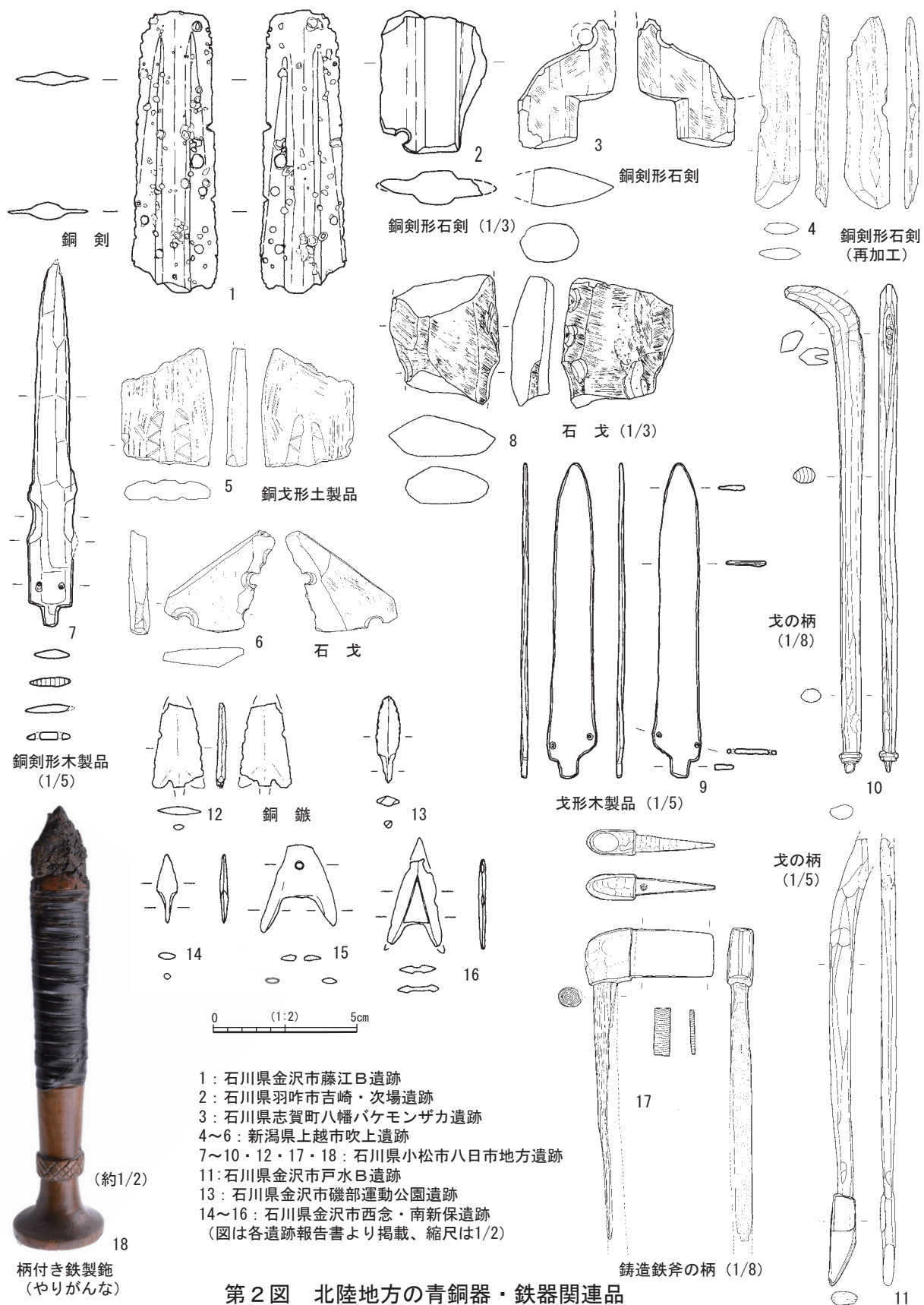
新潟県内の中期前葉後半～中葉前半の遺跡には、南加賀・能登・越中地方の土器が若干搬入されてから、櫛描文系土器の定着が始まった。長野県大町市来見原遺跡では中期前葉末に能登（か北加賀）地方の土器が1点搬入されており、中期中葉の栗林式土器は北陸系土器の影響で成立した可能性が指摘されている。北陸地方の中期中葉以降の遺跡では、多くの遺跡で栗林式土器や長野県産の石斧が出土する。上越地方では長野県から搬入された土器が主体だが、上越地方以西では距離が遠くなるにつれて搬入土器よりも模倣土器の方が多く出土する傾向がある。長野県産の石斧は南加賀地方（八日市地方遺跡20点）まで多く出土し、福井県若狭地方や滋賀県長浜市でも確認できる。長野県産の石斧は壊れても柱状片刃石斧や石槌に再利用され、短くて使えなくなると土坑の底に埋納された例もあり、大切に利用されていた。

八日市地方遺跡と吹上遺跡では、**青銅器関連遺物**が纏まって出土しているのは、**水上・陸上交通の要衝**に立地し、**玉（交換材）**生産を盛んに行っていたからである。両遺跡をつなぐ間の遺跡では玉生産は盛んでないので、青銅器関連遺物は若干しか出土しない。八日市地方遺跡では木製品から**鉄製工具**（鑄造鉄斧の柄15本、柄付き鉄製鉋）の存在が指摘されている。八日市地方遺跡では山陰・近畿・東海地方の土器が搬入され、氷見市大境洞窟では生駒西麓産の土器、東的場タケノハナ遺跡では米子地域、吹上遺跡では出雲地域の土器が搬入されている。また、**分銅形土製品**は石川県内では27点（八日市地方遺跡17点、羽咋市7点）が出土し、文様から山陰系と思われる。**山陰地方と北陸地方は密接な関係**が伺え、この流れで九州型銅戈や鉄器などを入手したものと想定される。また、銅鐸や大阪湾型銅戈は近畿地方で製作され、八日市地方遺跡・吹上遺跡を通じて、**長野県産の石斧**などを**交換材**として柳沢遺跡にもたらされたものと想定される。

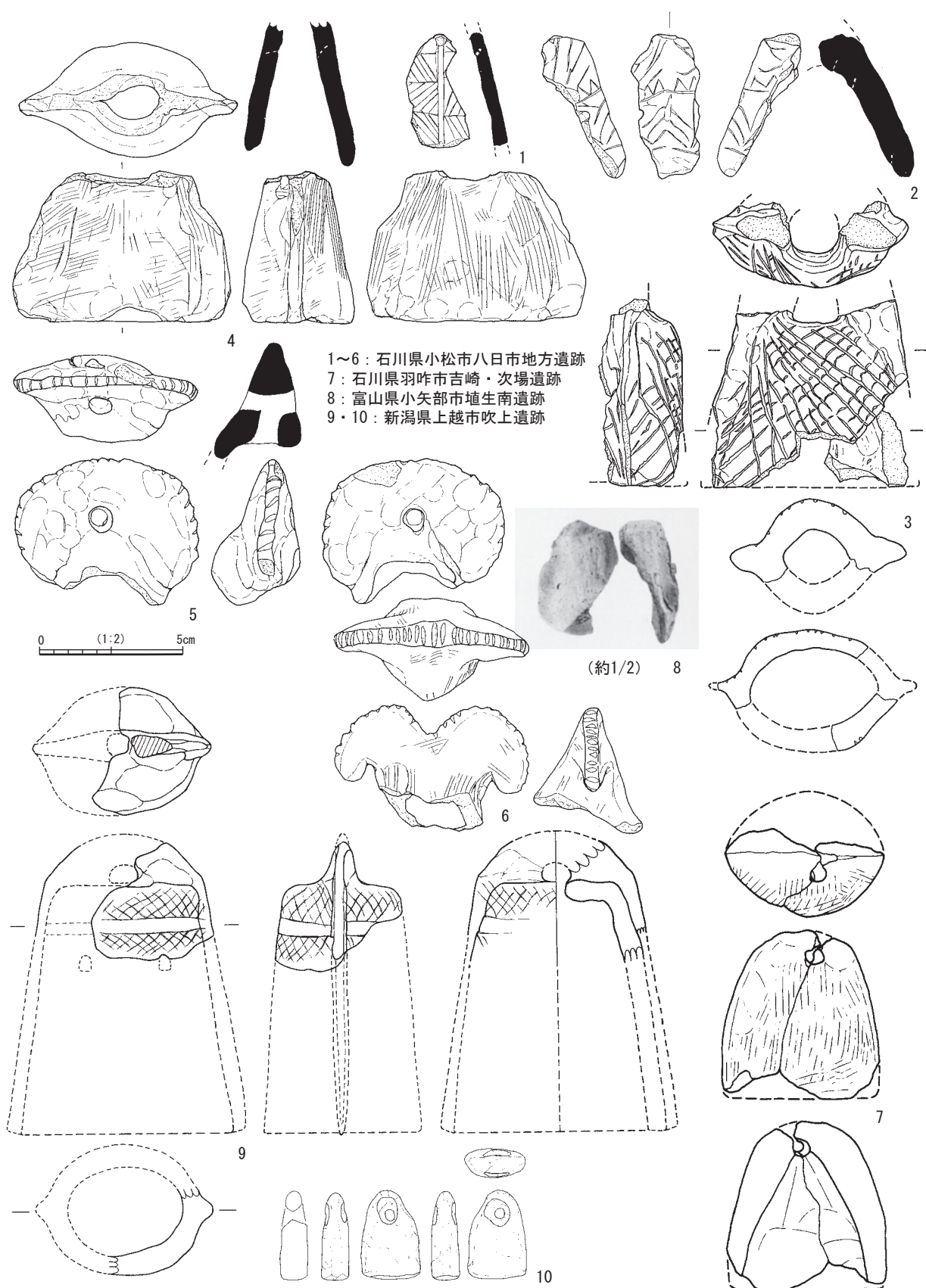
図出典文献

- 石川県立埋蔵文化財センター 1987『吉崎・次場遺跡』 1988『吉崎・次場遺跡』
石川県埋蔵文化財センター 2001『藤江B遺跡Ⅱ』 2002『戸水B遺跡』
2004『八日市地方遺跡』『東の場タケノハナ遺跡』『猫橋遺跡』
射水市教育委員会 2006『作道遺跡』
小矢部市教育委員会 2005『平成16年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概要』
金沢市教育委員会 1988『磯部運動公園遺跡』 1989『西念・南新保遺跡Ⅱ』
上中町教育委員会 1984『大鳥羽遺跡』
黒部市教育委員会 2007『堀切遺跡G区』
神戸市立博物館 1993『銅鐸の世界展一地の神への「いのり」ー』
小松市教育委員会 2003『八日市地方遺跡Ⅰ』
上越市教育委員会 2006『吹上遺跡』 2011『吹上遺跡Ⅱ』
敦賀市教育委員会 2001『舞崎前山古墳・舞崎遺跡』
富来町教育委員会 2000『富来城跡』
長野県埋蔵文化財センター 2012『柳沢遺跡』
飛騨市教育委員会 2012『杉崎廃寺跡2』
福井県 1986『福井県史資料編13 考古一図版編』
福井県教育庁埋蔵文化財センター 1988『下屋敷遺跡、堀江十楽遺跡』 2005『南井夜山銅鐸出土地』
2011『木崎遺跡』『府中石田遺跡』『中角遺跡4』『吉河遺跡』
森川昌和・大森宏 1971「若狭高浜町出土の石剣・石戈」『若狭考古学研究会研究報告2』
吉岡康暢 1969「伝石川県河北潟畔出土銅鐸に付いて」『石川考古学研究会会誌第12号』

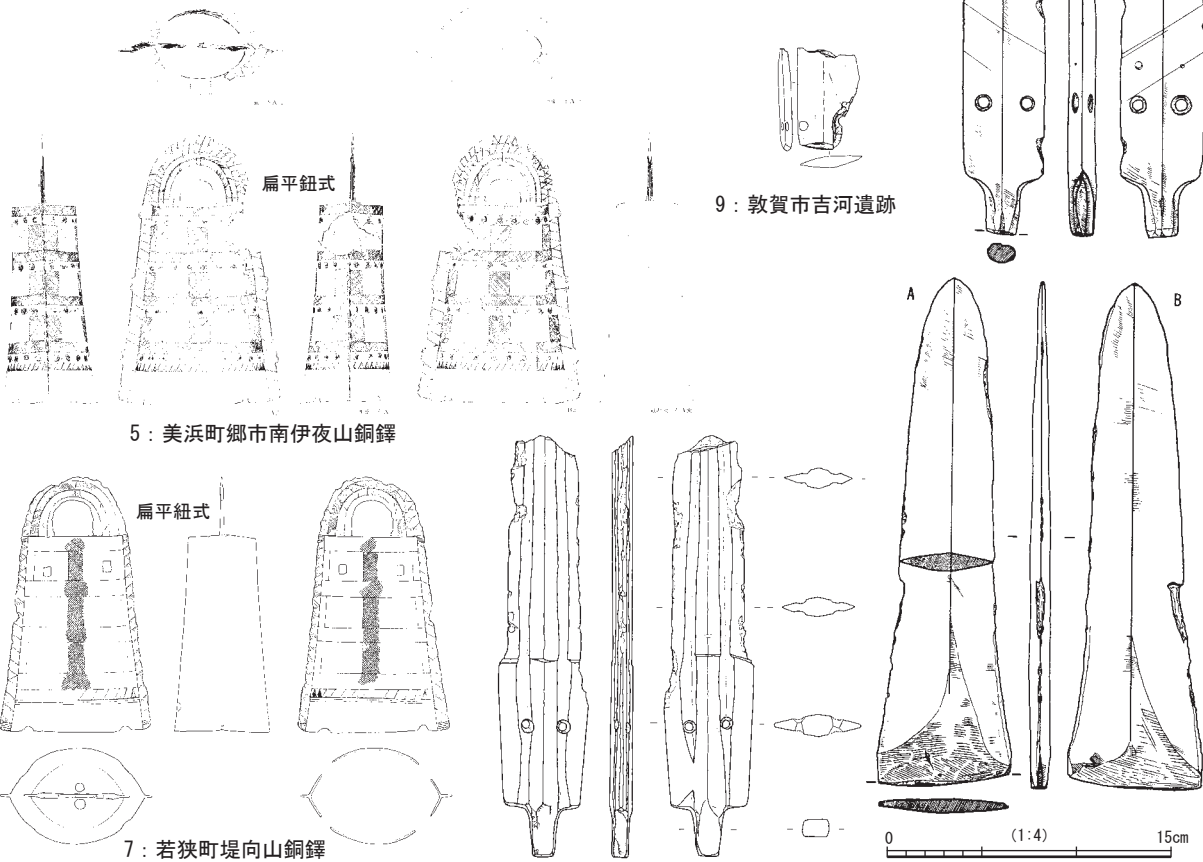
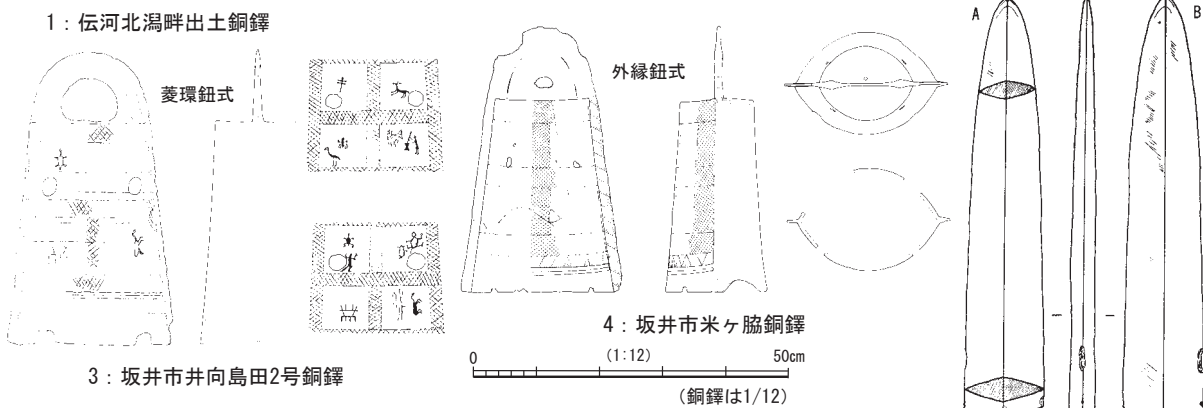
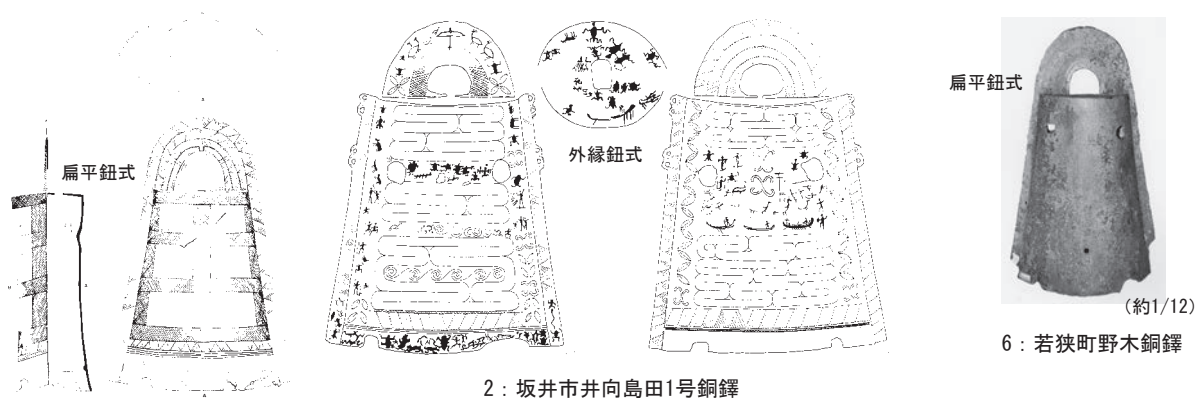




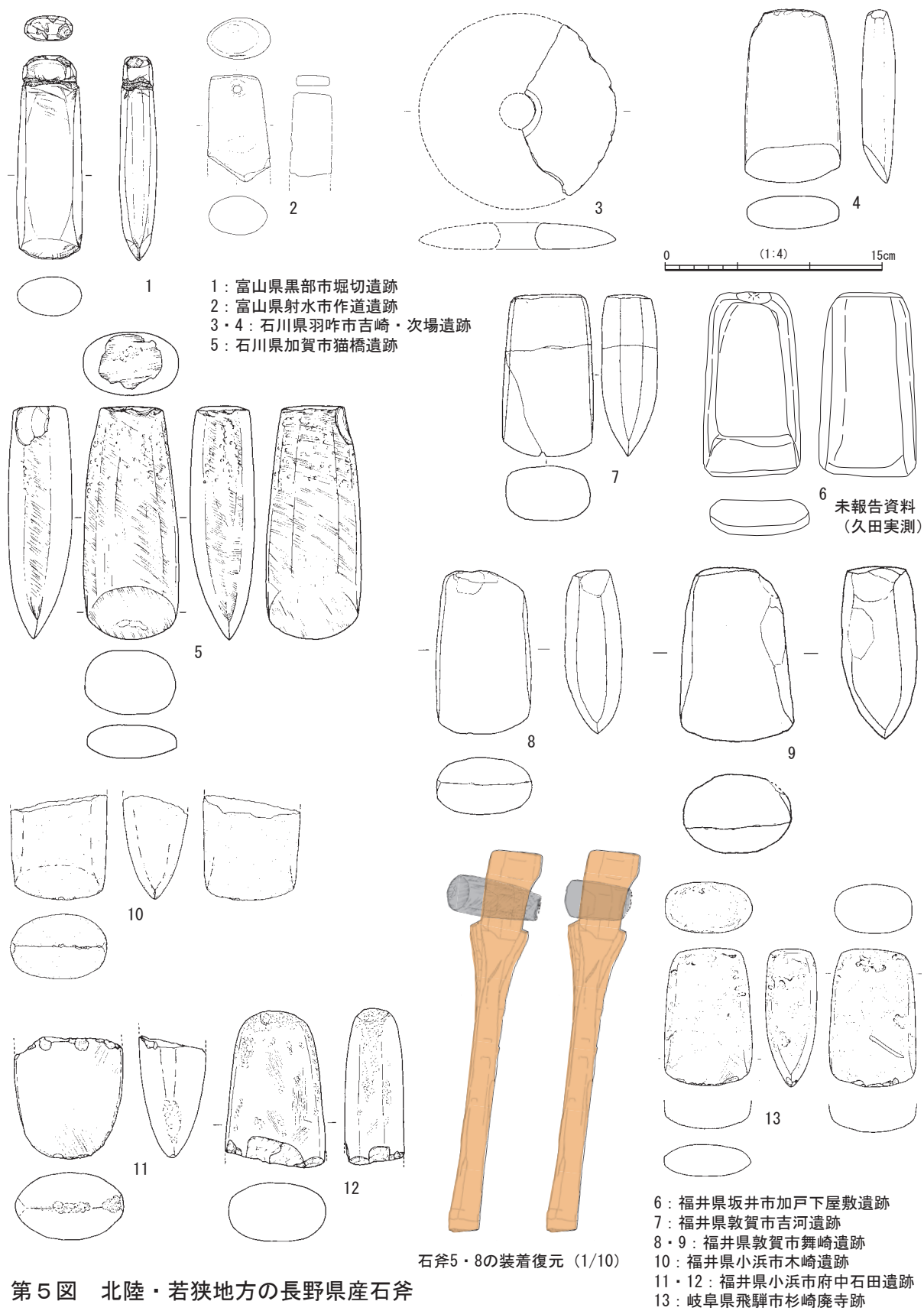
第2図 北陸地方の青銅器・鉄器関連品



第3図 北陸地方の銅鐸形土製品・石製品 (1/2)



第4図 北陸・若狭地方の銅鐸など



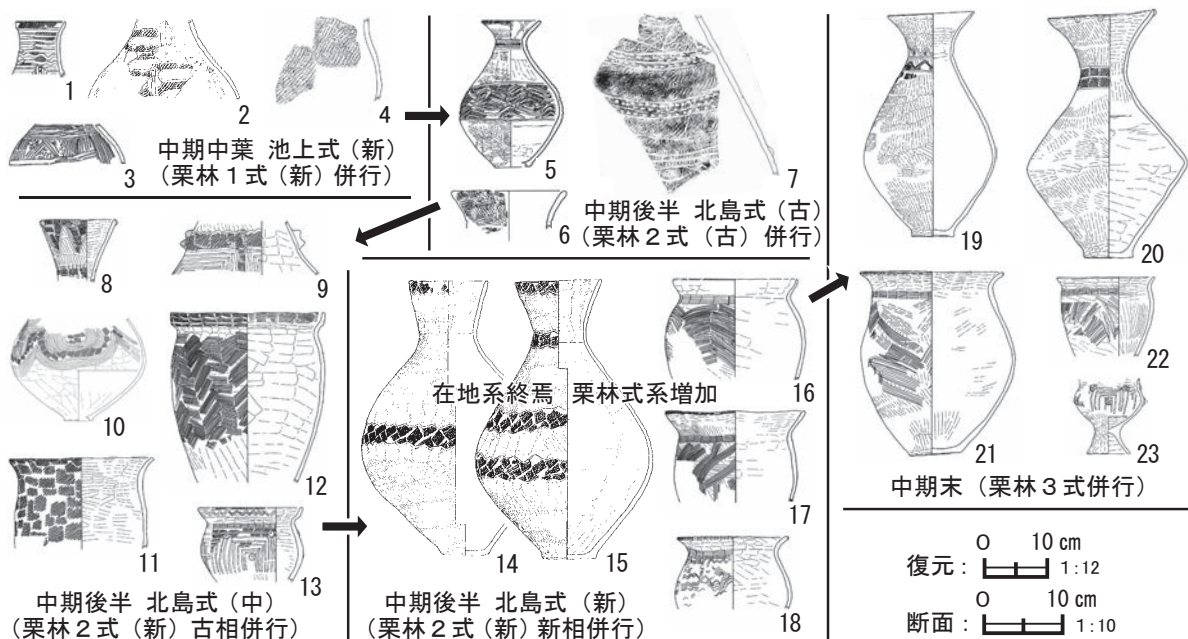
第5図 北陸・若狭地方の長野県産石斧

弥生時代中期における関東と信州との地域間交流

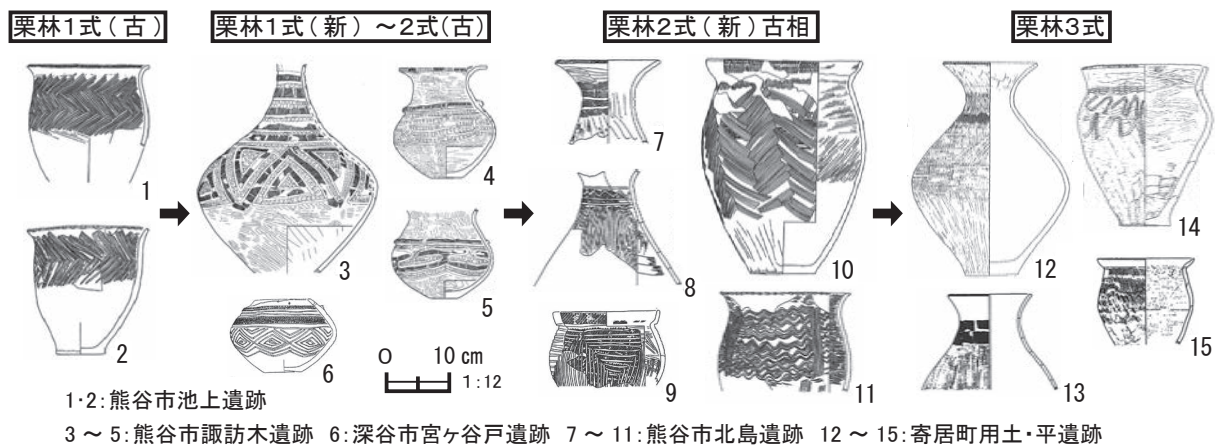
埼玉県熊谷市教育委員会 松田 哲

報告要旨

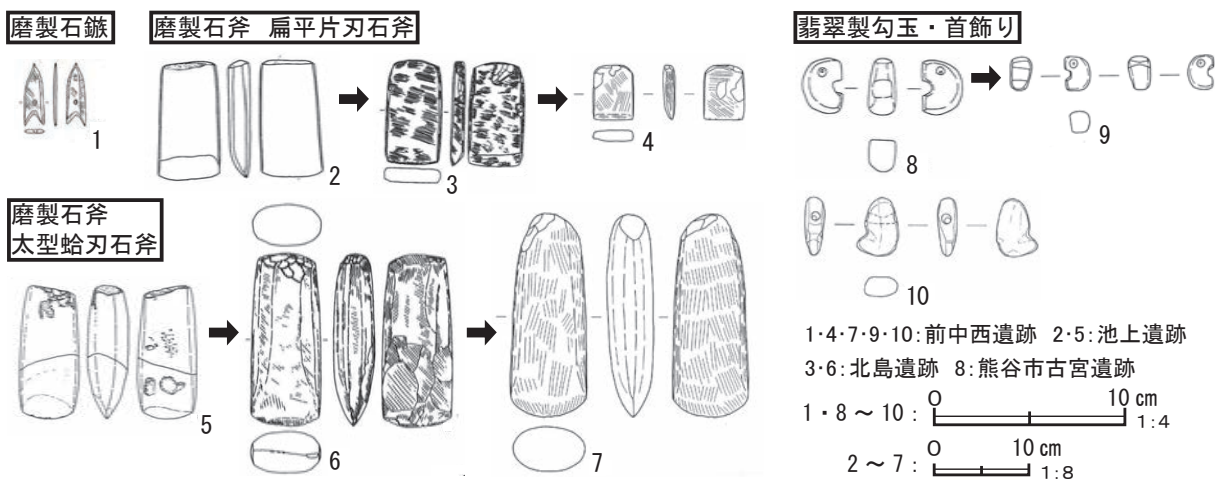
1. 関東における弥生時代中期後半の地域性は、4つに大別(第1図)。
2. 関東への栗林式土器文化圏の波及は、群馬県西部・埼玉県北西部まで(第2図)。
報告主体の埼玉県熊谷市周辺は、関東における栗林式土器文化圏の最前線。
3. 埼玉県熊谷市前中西遺跡は、規模や存続期間から当地域の拠点集落。出土土器より中期は、中葉(栗林1式(新)併行)から末(栗林3式併行)まで継続。中期後半新段階(栗林2式(新)新相併行)に在地系が終焉を迎え、栗林式系が主流となる(第3図)。
4. 熊谷市周辺では、前中西遺跡以外にも栗林式系土器が1式(古)から3式まで出土。時期が下るにつれて割合増加(第4図)。
5. 磨製石器は、群馬・埼玉ともに栗林式からの完成品搬入(杉山)。太形蛤刃・扁平片刃石斧主体。玉類は、後述の管玉の他に翡翠製も出土(第5図)。
6. 青銅器・模倣品は、群馬県では南西部の鐺川流域で銅戈・石戈出土(第6図)。埼玉県は青銅器未検出。熊谷市周辺で石戈、秩父市で変形石戈出土。前中西遺跡では、緑色岩製の独鈷石も出土(第7図)。
7. 熊谷市では、中期中葉から中期末までの土偶・土偶形容器が出土。土器同様、時期が下るにつれて栗林式文様要素が増加(第8図)。
8. 集落は、いくつかの住居跡群でグループ形成(=栗林式との共通点?)。池上・小敷田遺跡(第9図左)では、環濠検出。北島遺跡(第 図)・前中西遺跡(第 図)は未検出。水田や堰が検出された北島遺跡では、南関東中期中葉の神奈川県小田原市中里遺跡に類例のある独立棟持柱建物跡検出。拠点集落である前中西遺跡の集落形態・変遷は、長野県長野市松原遺跡に類似。
9. 墓制は方形周溝墓・土器棺墓主体。居住域と墓域を分ける(=栗林式との相違点)。池上・小敷田遺跡では、関東最古段階の方形周溝墓検出(第9図右)。中期後半の南関東拠点集落内に大型方形周溝墓を構築する事象が、前中西遺跡(第 図)・群馬県高崎市高崎城三ノ丸遺跡(第 図)で確認、長クラスの墓か。方形周溝墓以外に前中西遺跡では、中期後半新段階の礫床木棺墓4基検出。うち2基より赤玉石製管玉多数出土。柳沢遺跡の数・法量上回る(第 図)。
関東への栗林式土器文化圏の主要ルートは、佐久→群馬県南西部鐺川流域→埼玉県北西部(馬場)(第 図)。東山道の基となるルートか。
熊谷市周辺の弥生時代中期は、遺構は在地系主体だが、遺物は時期が下るにつれ栗林式系増加。南関東の影響を受けつつも独自の地域社会形成(第 図)。



第3図 埼玉県熊谷市前中西遺跡弥生時代中期土器編年(石川・松田 2014 より作成)



第4図 埼玉県熊谷市前中西遺跡周辺出土栗林式系土器(各遺跡報告書より作成)

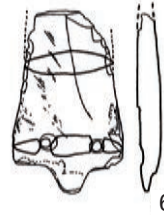
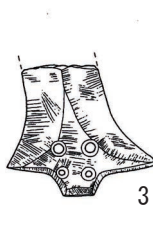


第5図 埼玉県熊谷市出土栗林式関連石器・玉類(各遺跡報告書より作成)

銅戈



石戈



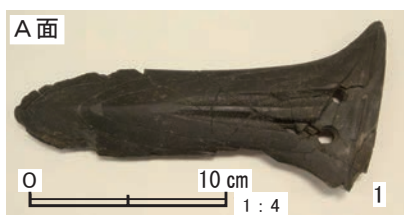
6

0 10 cm
1:4

1: 甘楽町三ツ保遺跡 2・4: 富岡市八木連西久保遺跡 3: 富岡市古立東山遺跡 5: 富岡市鍋川河床 6: 嬬恋村中郷遺跡

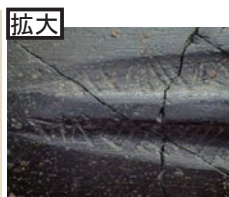
第6図 群馬県出土銅戈・石戈 ((埋蔵文化財研究会 2016) (吉田 2013) より作成)

A面

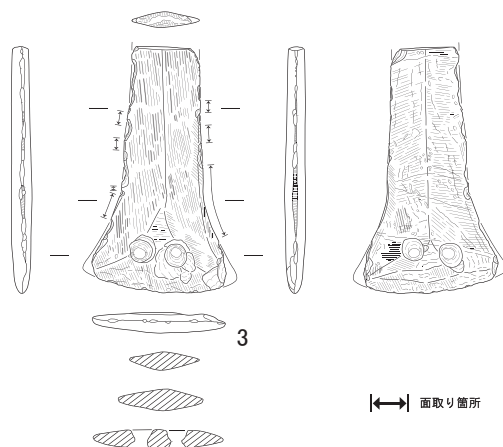


0 10 cm
1:4

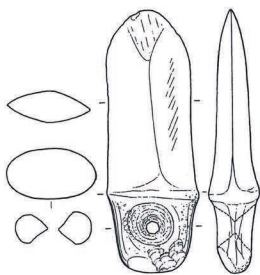
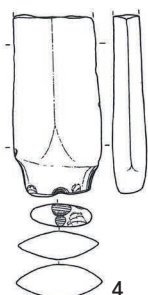
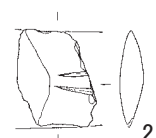
拡大



B面



面取り箇所



独鈷石



1・2: 前中西遺跡

3: 宮ヶ谷戸採集

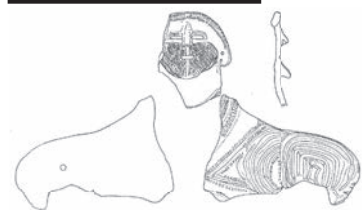
4: 秩父市井上採集

5: 秩父市 (小鹿野町) 採集

前中西遺跡 (H26 年度調査 未報告)

第7図 埼玉県出土石戈 (変形含)・独鈷石 ((埋蔵文化財研究会 2016) (青木・松田 2017) より作成)

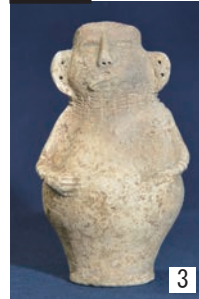
中期中葉 池上式 (古)



中期後半 北島式 (中)



中期末



3

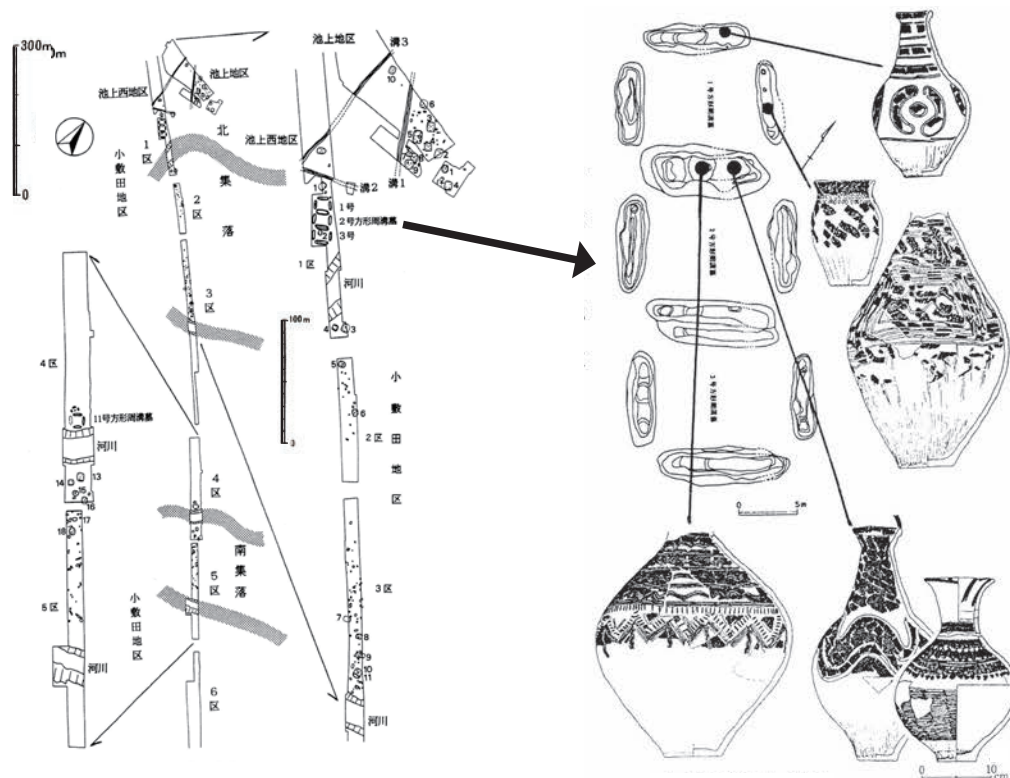
器高: 約 18 cm

1: 池上遺跡

2: 前中西遺跡

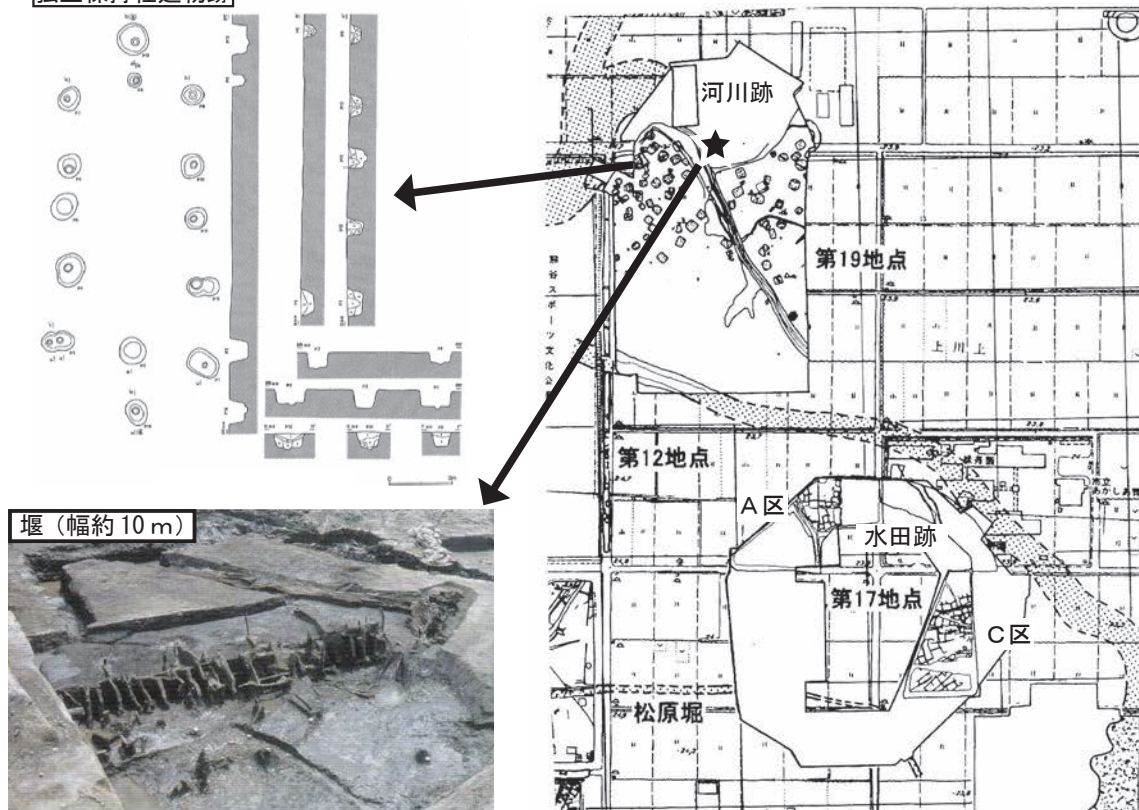
3: 諏訪木遺跡 (H26 年度調査 未報告)

第8図 埼玉県熊谷市出土土偶・土偶形容器 (各遺跡報告書より作成)

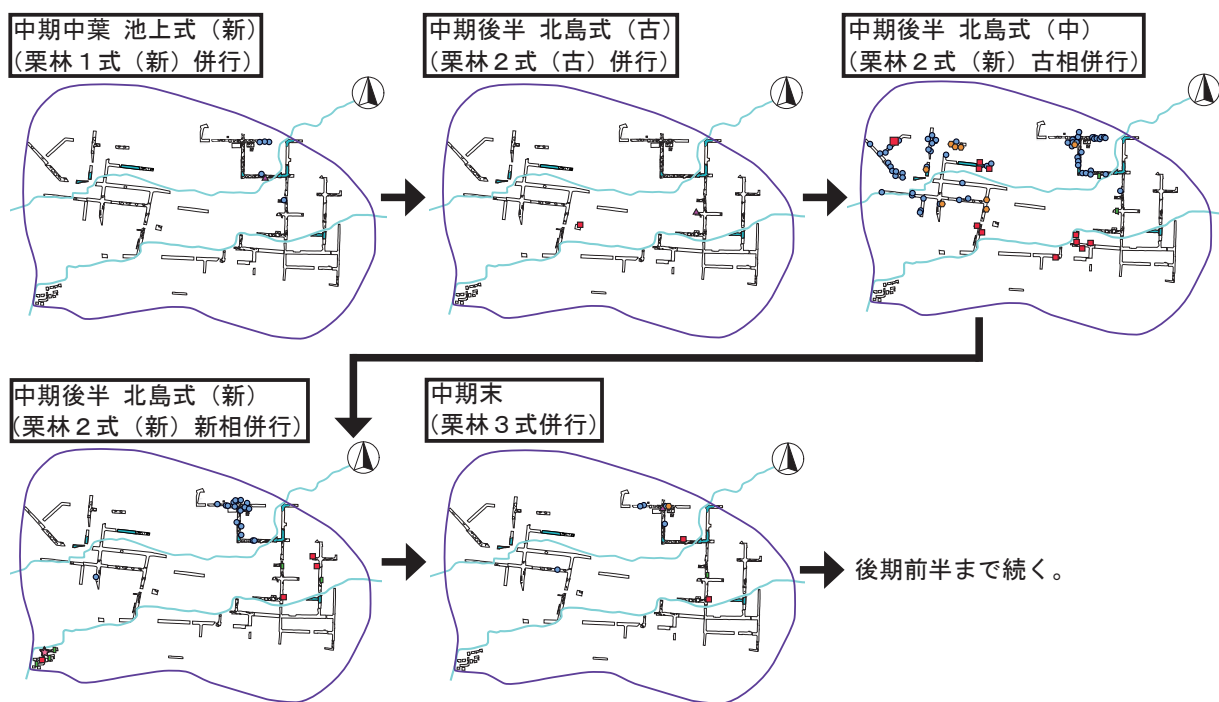
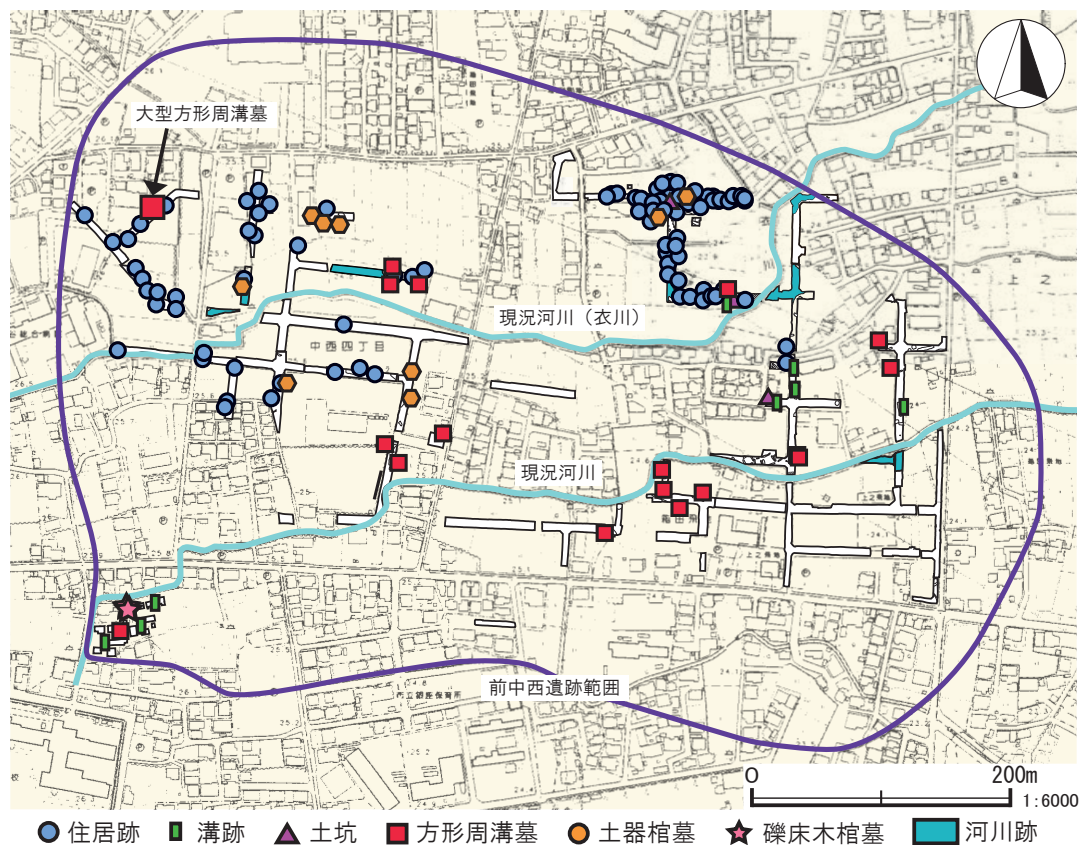


第9図 埼玉県熊谷市池上・行田市小敷田遺跡（石川 2001 より転載）

独立棟持柱建物跡



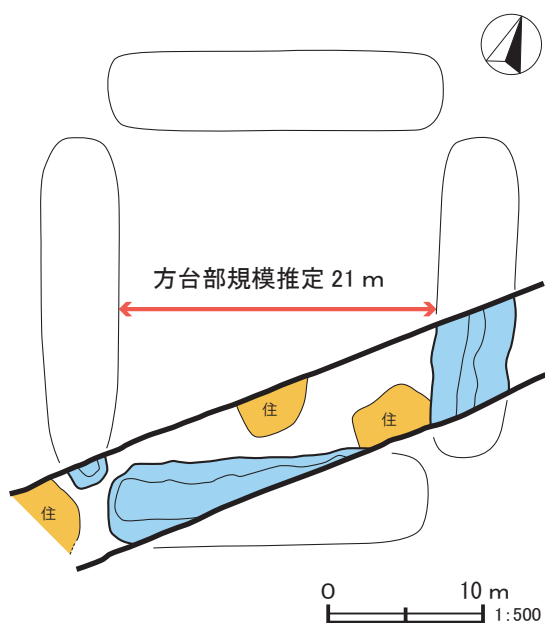
第10図 埼玉県熊谷市北島遺跡（吉田 2003 より作成）



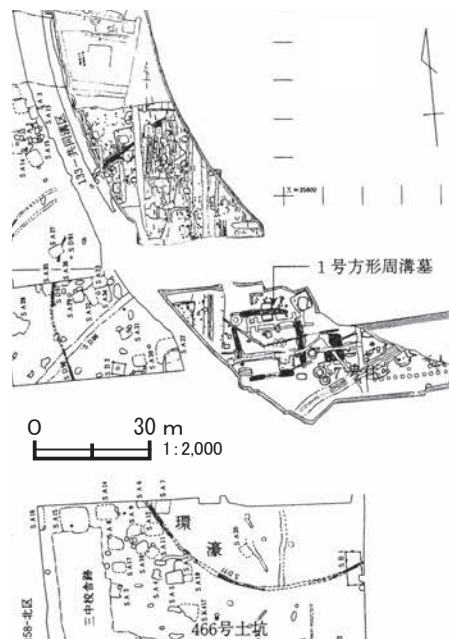
<集落・墓の変遷>

中期中葉～中期後半古段階：小規模 → 中期後半中・新段階：大規模 → 中期末以降：縮小
(栗林1式～2式 (古) 併行) (栗林2式 (新) 古・新相併行) (栗林3式 併行)

第11図 埼玉県熊谷市前中西遺跡弥生時代中期遺構分布図 (石川・松田 2014 より作成)



第12図 埼玉県熊谷市前中西遺跡大型方形周溝墓 (平成26年度調査 未報告)

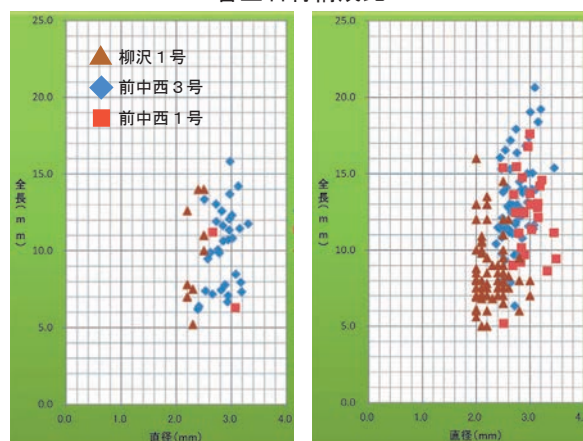
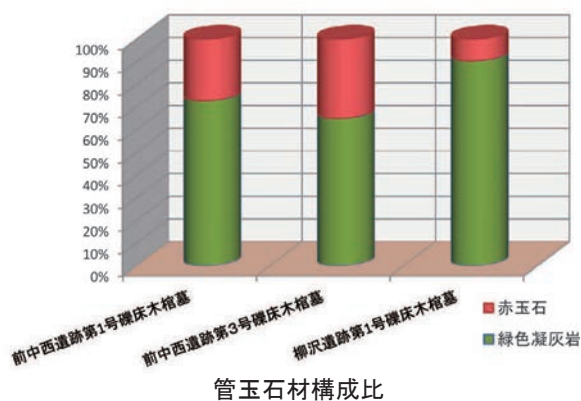


第13図 群馬県高崎市高崎城三ノ丸遺跡 ((中村1994)(埼玉考古学会2003)より転載)



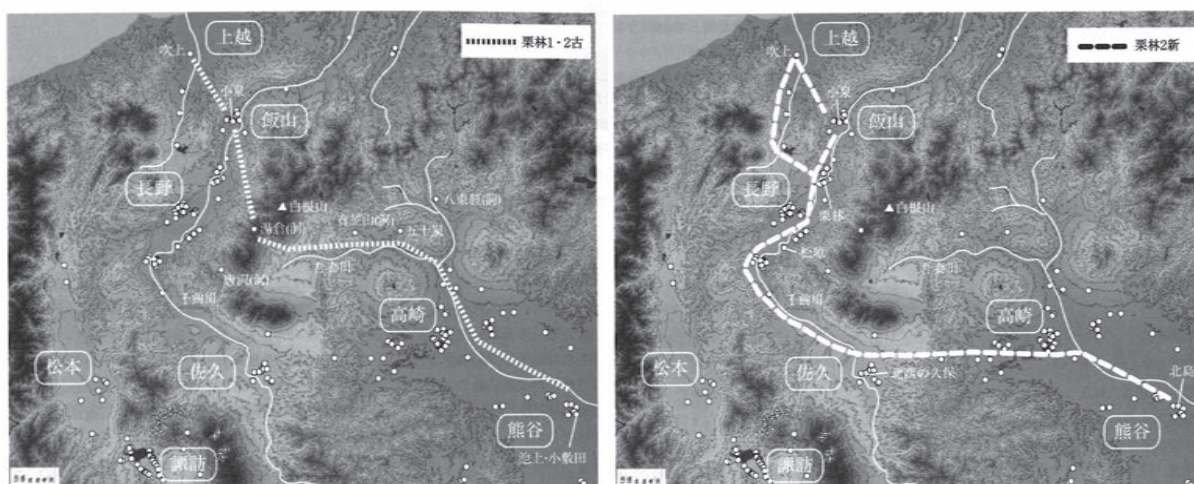
出土遺物

- 1号：管玉 44点（赤玉石 12、緑色凝灰岩 32）
- 2号：なし
- 3号：管玉 117点（赤玉石 41、緑色凝灰岩 76）
- 4号：なし



管玉法量分布 (左：赤玉石 右：緑色凝灰岩)

第14図 埼玉県熊谷市前中西遺跡礫床木棺墓 (森田2014より作成)



第 15 図 栗林式段階の交流ルート(馬場 2008 より転載)

在地系		中期中葉 池上式(新)	中期後半(古) 北島式(古)	中期後半(中) 北島式(中)	中期後半(新) 北島式(新)	中期末
栗林式系		栗林1式(新)	栗林2式(古)	栗林2式(新)古	栗林2式(新)新	栗林3式
遺構	竪穴住居跡					
	方形周溝墓					
	土器棺墓					
	礫床木棺墓					
遺物	土器					
	打製石器					
	磨製石器					
	土偶 土偶形容器					
	独鈷石					
	石戈					
	管玉(赤玉石)					
	翡翠製玉類					

= 在地系

= 栗林式系

第 16 図 埼玉県熊谷市前中西遺跡在地・栗林式系要素時期別変遷図

<引用・参考文献>

- 青木克尚・松田 哲 「深谷市宮ヶ谷戸採集の石戈」『埼玉考古』第 号埼玉考古学会
- 石川日出志 「関東地方弥生時代中期中葉の社会変動」『駿台史学』 駿台史学会
- 石川日出志 「地域からの視点と弥生時代研究」『地域と文化の考古学』Ⅱ
- 石川日出志・松田 哲 「総論」『考古学リーダー 熊谷市前中西遺跡を語る～弥生時代の大規模集落～』関東弥生文化研究会ほか
- 古池晋禄 『明戸南部遺跡群Ⅱ』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第 集
- 腰塚博隆ほか 『諏訪木遺跡Ⅲ』埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書第 集
- 埼玉考古学会 『北島式土器とその時代－弥生時代の新展開－』
- 杉山浩平 『東日本弥生社会の石器研究』
- 鈴木孝之 『古宮 中条条里 上河原』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 集
- 中島 宏ほか 『池守・池上』埼玉県教育委員会
- 中村 茂 『高崎城三ノ丸遺跡』高崎市教育委員会
- 馬場伸一郎 「弥生中期・栗林式土器編年の再構築と分布論的研究－弥生交易論の可能性を視野に入れて－」『国立歴史民俗博物館研究報告』
- 埋蔵文化財研究会 『第 回埋蔵文化財研究会 青銅器の模倣Ⅱ』発表要旨・資料集成
- 松田 哲 『前中西遺跡Ⅳ』埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書第 3 集
- 松田 哲 『前中西遺跡Ⅴ』埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書第 7 集
- 松田 哲 『前中西遺跡Ⅵ』埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書第 9 集
- 松田 哲 『前中西遺跡Ⅶ』埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書第 集
- 松田 哲 『前中西遺跡Ⅷ』埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書第 集
- 宮昌之ほか 『池上西』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 集
- 森田安彦 『前中西遺跡Ⅸ』埼玉県熊谷市前中西遺跡調査会
- 森田安彦ほか 『前中西遺跡・西別府館跡・王子西遺跡・立野遺跡』埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告第 集
- 吉田 広 「信州における青銅器の受容と祭祀」『文化の十字路 信州』日本考古学協会 年度長野大会実行委員会
- 吉田 稔 『小敷田遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 集
- 吉田 稔 『北島遺跡Ⅵ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 集
- 吉野 健 『前中西遺跡Ⅱ』埼玉県熊谷市教育委員会
- 吉野 健 『前中西遺跡Ⅲ』埼玉県熊谷市教育委員会